

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

比較文化論：大項目別報告：娯楽 5300

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 榮吉 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003688

娯 楽 5300

石 川 榮 吉*

1. 項目の地理的分布

2. 考察

1. 項目の地理的分布

娯楽として今回取りあげた小項目は、竹馬、凧、ボール遊び、こま、チェス類、人形芝居、影絵、闘鶏、闘牛、ブランコ、あやとり、舟競争の12項目である。この12項目の地理的分布を大観するとき、つぎの四つの項目群(分布傾向)を分けることができる。

I. 東南アジア、オセアニアにわたってひろく分布するもの

竹馬(5301) 凧(5302) ボール遊び(5303) こま(5304) 舟競争(5312)

II. 大陸部を除く東南アジア(すなわち島嶼部)、オセアニアにわたってひろく分布するもの

あやとり(5311)

III. 主として東南アジアに分布し、オセアニアにはわずかしこ分布しないもの

チェス類(5305) 闘鶏(5308) ブランコ(5310)

IV. 東南アジアにだけ分布し、オセアニアにはまったく分布しないもの

人形芝居(5306) 影絵(5307) 闘牛(5309)

この4群のそれぞれについて、小項目別に分布状況を要約してみることにしよう。

まず第I群のうち、もっともひろい分布を示すものは、こま、ボール遊び、凧の3項目である。こまは、西はマダガスカルから東はポリネシアの東端イースター島にいたるまで、もっとも広範に分布している。ボール遊びがこれにつぐが、ただし、マダガスカルとイースター島とからは分布の報告がない。凧の分布もボール遊びに大差ないが、欠落地域としてマダガスカルのほかニューギニアがくわわる。イースター島か

* 中京大学社会学部

らは報告がある。

以上の3項目にくらべると、竹馬と舟競争の分布濃度はやや劣る。竹馬の分布が東南アジア大陸部と大スンダ列島（とくにジャワ、スマトラ）とに稀薄なことが、注目される。舟競争については、東南アジア島嶼部の分布がわずか（ジャワ、スマトラ、小スンダ・モルッカ、フィリピンに報告欠如）である。このように、竹馬と舟競争とは分布濃度の点で前記3項目にやや劣るが、しかし、分布の拡がりという点では、必ずしも前記3項目よりせまいわけではない。

つぎに第Ⅱ群をみると、これは小項目あやとり一つだけで、群といえぬものであるが、マダガスカルをのぞいて東南アジア島嶼部からオセアニアにひろく分布するのにひきかえ、大陸部からの報告はわずかに1例しかない。オセアニアでの分布では、ニューギニア、メラネシアからの報告の多いことが注目される。

第Ⅲ群のうち、オセアニアでの分布が最も稀薄なのはチェス類で、ハワイにしかみられない。闘鶏がこれについて少ないが、ただしこれにあってはポリネシアのほかミクロネシアからも1例（パラオ）報告がある。チェス類、闘鶏についての報告が、ニューギニアおよびメラネシアから皆無であるのに対して、ブランコは逆にニューギニアとメラネシアに多い。ミクロネシアとポリネシアは各1件ずつであるが、ミクロネシアのその1件はカピングマランギであり、この島はポリネシアの飛地であるから、ミクロネシア0件（ゼロ）、ポリネシア2件とすべきかもしれない。

なお、闘鶏とブランコは、どちらもマダガスカルからは報告されておらず、また中国南部にも闘鶏の報告がない。

最後に第Ⅳ群であるが、これに属する小項目のうち、分布のもっともひろいのは闘牛であり、影絵がこれにつき、人形芝居についての報告が最もすくない。影絵と人形芝居に関しては、ともにマダガスカルとフィリピン・台湾からは報告がなく、さらに、前者の分布が大陸部よりも島嶼部に片寄るのにたいして、後者はそのぎゃくの傾向を示している。しかし、大陸部でも中国南部には、両者とも欠けている。

以上、4項目群のそれぞれについて、それぞれに属する小項目別の分布状況を要約してみたが、つぎにそれぞれの分布の意味するところについて、若干の考察を加えてみることにする。

2. 考 察

まず第Ⅰ群である。これに属する各小項目は、①東南アジア、オセアニアにわたっ

てひろく分布し、②その分布状況は地理的にほぼ連続しているとみることができる。この②の点から、各小項目は、それぞれの分布地域で独立に生み出されたものでなく、伝播によって拡がったものである可能性が高い。とすれば、①の点からみて、その伝播の歴史深度は相当に深いかもしれない。伝播をめぐる諸条件を同一と仮定するならば、古いものほど伝播の到達範囲がひろくなるはずだからである。

しかしながら、これはあくまでも一つの考え方にすぎない。第Ⅰ群に属する各小項目は、どれをとっても、世界大の拡がりを示すものであって、地域ごとの独立発生を仮定することも不可能ではないからである。

第Ⅱ群はあやとりだけであるが、その分布は、さきののべたように、東南アジア島嶼部とオセアニアとに濃厚であり、前者については、とくに台湾に分布の濃いことが注目される。オーストロネシアンの起源地とまではいわないまでも、台湾のオーストロネシアンがすこぶる古い事実を考えると、あやとりの分布は、その存在する各地での独立発生とみるよりは、古いオーストロネシアン文化の流れとみたほうがよさそうである。ニューギニアでは、パプアンのあいだにも分布しているが、これは沿岸部のオーストロネシアンからの伝播であろう。サツマイモをはじめ、ニューギニアではそうした例がけっして稀ではない。

第Ⅲ群の小項目は、どれもオセアニアにはわずかししか分布の報告がないものばかりであるが、それらのうちでチェス類がとくに少なく、ハワイからしか報告がない。ミクロネシア、メラネシア、ニューギニアはもとより、他のポリネシアのどこにも存在しないとすると、ハワイにおけるチェス類の存在は、つぎのどれかの理由によってしか説明できない。

①ハワイで独自に発明された。②東南アジアから伝播してきたが、ハワイにしか受容されなかった。③かつては他の太平洋諸島にも存在したが、ハワイを除くほかの諸島では消失した。④初期欧人来航者など、ハワイの《発見》後、比較的初期にここを訪れた欧・亜人などの外来者によって伝えられた。⑤他の太平洋諸島にも存在するが、たまたま報告が欠落した。

確たる証拠があるわけではないが、私は④の可能性が高いのではないかという気がしている。

つぎに闘鶏であるが、この遊びも世界各地に分布するものの、東南アジア・オセアニアの場合は、各地に独立発生したものとみるよりは、相互に歴史的な連関を有するとみるべきであろう。しかし、そうすると、オセアニアでの分布がきわめてわずかであり、とくにメラネシア、ニューギニアに報告の皆無なことが奇異におもわれる。も

し報告もれではなくて、真実、ニューギニア、メラネシアに欠如しているのならば、オセアニアへのこの文化要素の流れは、オセアニアへの民族移動が東南アジアからメラネシアの島々経由でなされたという通説に反して、マイクロネシアを経てポリネシアに達したものなのかもしれない。そうであったにしても、マイクロネシア、ポリネシアでの分布があまりにも少ないことに、やはり奇異の感を否めない。

ブランコについては、さきにものべたように、オセアニアではニューギニア、メラネシアに分布し、マイクロネシア、ポリネシアには各1件ずつしか報告がない。しかも、マイクロネシアでの分布はカピングマランギであり、これはマイクロネシアにおけるポリネシアの飛地であって本来のマイクロネシアではない。とすると、ブランコは東南アジアからニューギニア、メラネシア、ポリネシアにわたって分布することになり、これが東南アジアからオセアニアへの民族移動のルートにあたることをおもえば、ブランコはこのルートに乗ってオセアニアへ拡がり、ただしマイクロネシアには達しなかったということになる。この場合、ポリネシアでの分布が稀薄なことは、多くの島々でそれが受容されなかったか、あるいは中途消失したかと考えるほかない（報告もれがなかったとして）。

最後に、オセアニアにはまったく分布のしられない第IV群であるが、オセアニアに分布しないことの理由の説明は、それほど困難でない。まず闘牛についていえば、オセアニアに牛もしくは水牛が棲息せず、飼育もされていなかったことからして、闘牛がみられないのは当然である。オセアニアについてよりも、Acheh をのぞいてスマトラ、ジャワに欠けていることのほうが奇妙に思える。この両地域に闘鶏がきわめて盛んであることと、関係があるのかもしれない。

人形芝居と影絵は、ともにかなりソフィストケートされた文化要素と考えられ、東南アジアのそれは、インド文化の流れを汲むことほぼまちがいない。そしてこの流れは、東南アジアからオセアニアへの民族移動の完了後に東南アジアに入ったものと考えられるのである。マダガスカルに分布がみられないことも、同様の理由からであろう。

最後に、今回の文献調査では、娯楽に関するかぎり、オーストラリアからの報告が皆無であり、オーストラリアを考察外においたことを付言しておく。